



feature articles
特集
場

池内 淳子

【丸子中央病院の理念】 本院は、質の高い医療・介護の提供を通じて地域のしあわせ創りに貢献します。

「お雛様の話」

お雛祭りにはまだ早いですが、毎年飾っている古いお雛様の話をしたいと思います。

作られたのは江戸の終わるか明治の初め頃らしいので多分150年以上は経っている。何故うちにあるかというところ、その当時横浜で貿易商をしていた親戚から子供が生まれたお祝いに送ってもらったという話だ。

いわゆる享保雛だがその大きさが半端ない。お内裏様は高さ60cm幅70cm程もある。そんな大きなお内裏様が2組ともう少し小ぶりの五人囃子が2組、その他に押絵雛が相当数あって、全部飾るとそれこそ8畳間が一杯になってしまう。圧倒的な存在感で見に来た人達は皆びっくりする。ご先祖様たちはお雛様を飾ると必ず親戚や近所の人たちを呼んでお祝いをしていたようだ。また、何年か前のお雛様ブームの時はテレビ取材を受けたり博物館の展示に貸し出したこともあった。長い年月、時代の移り変わりをお雛様たちはどう見てきたのか、答えてくれるはずもないが問いかけてみたくなる。

今一番の悩みは経年劣化が激しいことだ。昔はさぞかし煌びやかであっただろう装束もその面影は残

しつつもかなり色あせてしまったし、ふさふさだった絹糸の髪の毛もいつのまにかほとんどなくなってしまう。家族総出でこれ以上傷めないように気を付けながら飾るのだが、最近はやんちゃな孫が雛段を階段代わりに上ったりするのでお雛様もさぞかし驚いていることだろう。今年はどうしようかと迷いながらも毎年飾り続けている。



Contents

特集場
「地域の情報拠点」の場として、
利用者の様々なニーズに対応。

特集場
Marukko編集担当のこの本おすすめのための書評

当地域の医療提供体制につきまして

トピックス
Marukko TOPICS

- 6
- 5
- 4
- 1~3

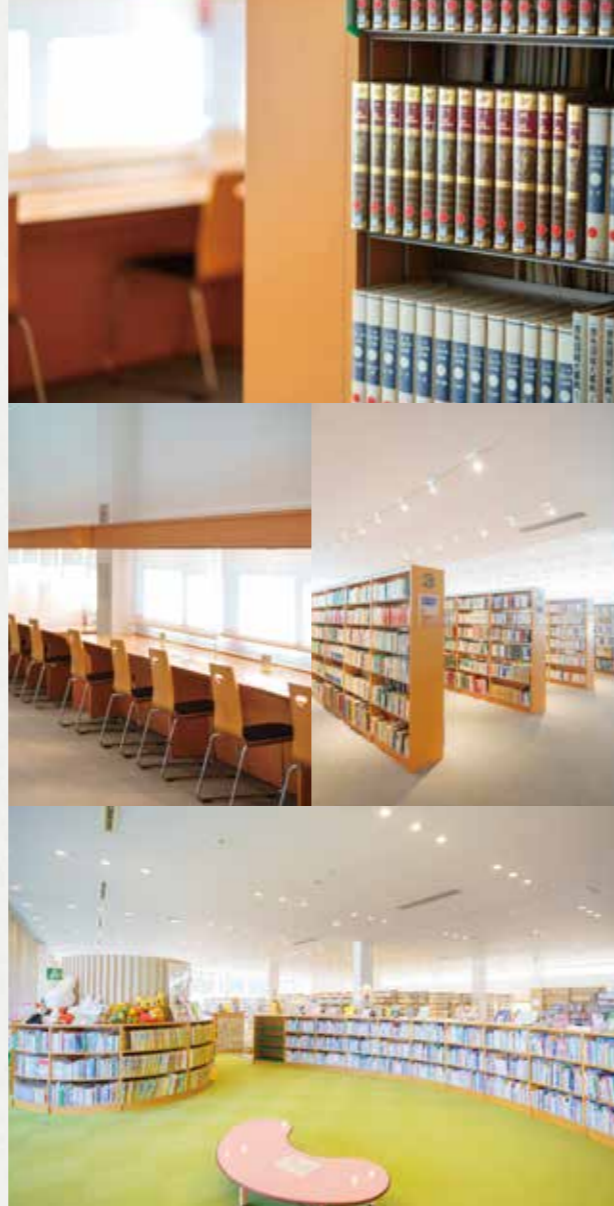


イラスト/森田 宏子

「地域の情報拠点」の場として、 利用者の様々なニーズに対応。



丸子中央病院のある場所は、かつてカネボウの工場があった場所でした。その工場があった広大な敷地に現在、官民織り交ぜたさまざまな建物が立っています。病院の西側、川沿いにあるモダンな建物が上田市立丸子図書館です。住民の憩いの場、学生の学びの場となる図書館の取り組みについて取材しました。



現

在の図書館の前身は丸子中央小学校の北側にあった

「丸子町立金子図書館」です。「昭和三十六年十月丸子町は町政五十周年を迎え、その記念事業の一つとして図書館建設を決議し、後、昭和四十年一月六日町内の信濃絹糸紡績株式会社社長金子行徳翁が逝去されご遺族から故人の遺志として図書館建設費にあてられたいと、金三〇〇万円の寄付を申し出られた。



「在りし日の丸子金子図書館」
1966年から約45年間、丸子中央小学校の近くにあり、映画ロケにも使われた。

町ではこれによって図書館建設を決め、館名を丸子町立金子図書館と命名した。「丸子町立金子図書館創立三十周年記念文集」より一九八〇年には移動図書館の「あおぞら号」が運行開始、貸出冊数も年々増えていきました。ただ、年数の経過に伴い施設の老朽化、狭隘化といった問題が出てきました。そこで、市民から新図書館建設の要望高まってきました。



金子図書館時代から引き継がれている現在のあおぞら号



Marukko 編集担当の この本お・す・す・めの書評



図書館でこの本のタイトルを見つけた瞬間、電気が走りまわりました。「これは素晴らしい取り組みだ」と直感できたからです。実際の取り組みはその想像以上。認知症の方が運ぶ料理は時によってオーダーと異なることがあります。客側もむしろ間違えてほしい、と思ってしまおうという心理もむしろ相手を思いやる気持ちなのかもしれません。深刻なことでも笑いや驚きに変えられる。これは、認知症だけでなく、ほかのことにも当てはまることです。この本は数年前に発売されたものですが、二〇二四年の夏も東京都庁で「注文を間違えるお店」が来店するなど、現在もこの活動は続いています。

『注文をまちがえる料理店』
小国士朗著（あさ出版）

認知症を理解する社会のために



第1回本屋大賞受賞作で多くの方がお読みになったことがあるであろう名著ですが、なぜここでこの本の紹介を？と思われた方もいらっしゃると思います。この小説は出版直後に映画化されましたが、そのロケ地は主に上田市内で行われました。そして、丸子金子図書館もロケ地となっているのです。ある年齢以降の記憶をなくした数学の博士と、そこで働く家政婦とその息子の、数学を通して心の交流。それは決して大きな感動を呼ぶものではありませんが、小さな心の揺らぎを伴い、私たちの胸を打ち続ける名作です。

『博士の愛した数式』
著／小川洋子著（新潮社刊）

心を揺さぶる名作は
映画化され上田がロケ地に



依存は、脳内に報酬（ごほうび）を求め回路ができあがり、コントロールのバランスが崩れると、ほどほどにできなくなる脳の病気です。意志や気持ちで解決しようとしてもうまくいきませんし、何度やめようと決意しても条件が揃うとまたやっつてしまいます。私たちはスマホやゲーム、喫煙、飲酒など「依存」に囲まれた環境で日々生活をしています。本書は、依存克服への第一歩を踏み出す手助けとなります。「やめたい」と思っている人やその関係者はもちろん、医療従事者にも多くの気づきを与えてくれる一冊です。

『脱・依存脳
「やめられない」をやめる本』
著／山下あきこ（小学館）

喫煙やゲームなど、依存の構造を知る

丸

子町は上田市との合併前から新図書館の建設を模索して

ていました。二〇一一年には新図書館建設委員会を設置し二〇〇九年、上田市は中丸子のカネボウ丸子工場跡地に新館を建設することを決定しました。そして、二〇二二年五月二日に上田市立丸子図書館の竣工式と開館式を開催しました。金子図書館の延床面積は本館、別棟合わせて六〇〇平米あまりだったものが、新丸子図書館の延床面積は二六三九平米、広さは2.5倍以上となりました。蔵書冊数も金子図書館時代の一九九四年の六万五千冊から、二〇二三年は十二万七千冊と倍増しています。貸出冊数も新図書館となり倍増しましたが、近年はその数が伸び悩んでいます。図書館では従来から様々な取り組みをしており、その中心的な活

動が子ども対象のおはなし会です。しかしながら、表のとおり、三〇歳以上が貸出冊数の四分の三弱を占めている状況もあり、二〇二五年の三月に、「大人の方も参加できる朗読会」を企画されているとのこと。年齢が高いほど本を読む習慣がある人が多いといわれています。利用者にとって、より魅力のある図書館を目指して今後



図書館まつりの一コマ「ハロウィンかぼちゃを作ろう!」。かぼちゃは、丸子地域で有休荒廃農地を防ぐために栽培されたもの。



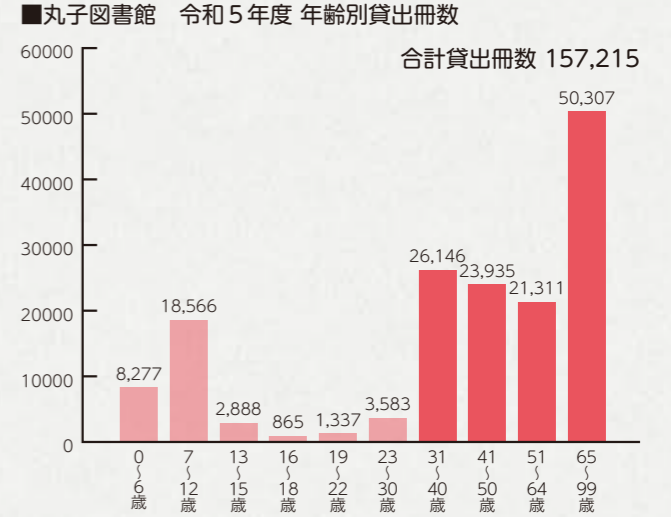
図書館まつりでは「本の福袋」も（本は差し上げるわけではなく貸し出しです。）



丸子図書館の医学(490番台)コーナーは疾患や部位ごとに分けられており、非常に探しやすい。



闘病記のコーナーも充実している。がんや認知症だけでなく、「発達障害」や「イップス」など取り扱いも幅広く、非常に細かい分類がなされている。



■丸子図書館 年間貸出冊数

年度	本館	移動図書館	合計
平成22年	73,955	21,801	95,756
23年	51,266	20,964	72,230 ^{*1}
24年	152,103	19,439	171,542 ^{*2}
25年	151,895	20,949	172,844
26年	151,895	20,949	172,844
27年	160,383	22,419	182,802
28年	161,764	23,047	184,811
29年	160,383	22,419	182,802
30年	163,319	21,841	185,160
令和元年	162,246	20,024	182,270
2年	138,194	17,337	155,531 ^{*3}
3年	165,634	17,641	183,275
4年	158,464	17,694	176,158
5年	159,658	18,625	178,283

※1.引越し準備のため、開館日数が例年より少なくなりました。
 ※2.現在の場所に転移し5月1日に開館。
 ※3.感染症対策のため利用制限等あり。

Instagramで病院の魅力を発信中!

当院では、Instagramを活用して地域の皆さんに情報をお届けしています。職場の雰囲気や病院の日常、イベントの様子などを楽しく発信中! リクルート情報も掲載しているので、医療や福祉のお仕事に興味のある方はぜひチェックしてください。こちらのQRコード、もしくは

「marukohprecruit」

で検索してフォローをお待ちしています!



医療と介護の総合相談ステーションへご相談ください

丸子中央病院1階にある「医療と介護の総合相談ステーション」では、地域のみなさんが安心して暮らせるよう、医療や介護などのご相談を幅広くお受けし、専門のスタッフがサポートをいたします。予約は不要です。プライバシーを厳守します。“お困りごと”がございましたら、お気軽にご相談ください。



病院の中のどこにあるの? 動画でみてみよう!

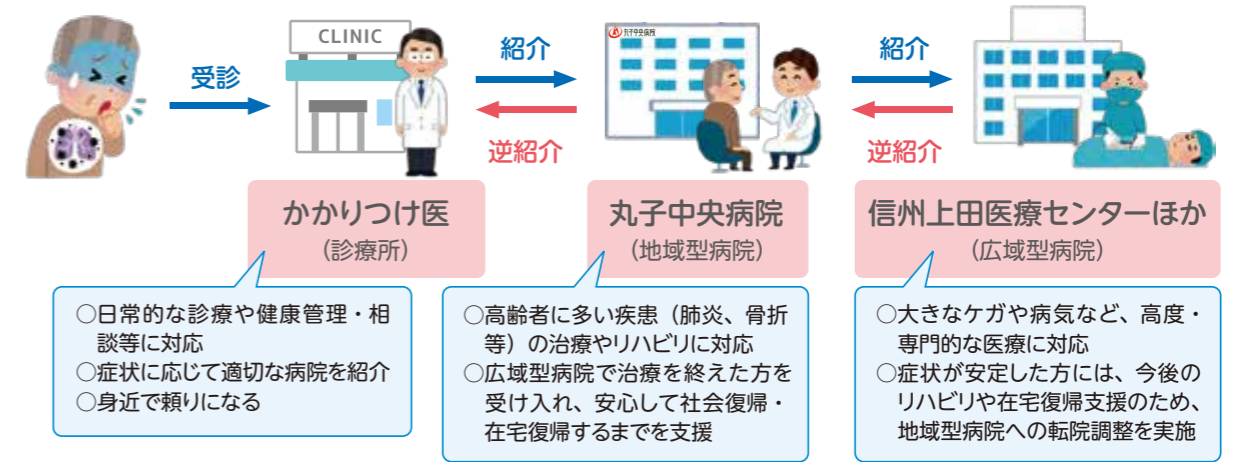


ご利用時間 / 平日:9:00~17:00 土曜日9:00~12:00
休日 / 日曜・祝日・年末年始(12月31日~1月3日)
電話:0268-75-2020

医療と介護の総合相談ステーションアクセス動画▶

地域の医療機関の役割分担と連携体制の現状

地域の医療資源は限られているため、各医療機関は役割を分担し、連携して地域医療を支えています。



「地域型病院」である 当院の役割



丸子中央病院 (地域型病院)

【当院の役割】

・丸子中央病院は長野県が策定した「医療提供体制のグランドデザイン」の中で示された地域住民の暮らしを支える「地域型病院」として、今後も上小地域の地域包括ケア体制を支える役割を担います。

- ①早期治療を目指す**急性期病床**
急性期病床は、外傷・手術・感染症など集中的な治療を行い状態の早期安定化に向けた医療を提供します
- ②在宅復帰を目標にリハビリテーションを行う**地域包括ケア病床**
地域包括ケア病床は、急性期の治療後に、すぐに在宅や介護施設に移行するには不安のある方などを対象に、患者さんご家族と一緒にリハビリ計画を考え、幅広い専門職種のスタッフにより、患者さんが安心して住み慣れた地域で生活できるようサポートします
- ③長期にわたり療養が必要な患者が入院できる**療養病床**
療養病床は、常に医療・介護が必要だが在宅では対応が難しい場合に長期間の療養生活を提供します

必要ときに適切な医療を提供し、患者さんの状態にあった病床を選択することで、急性期の治療から在宅復帰までを継続して支援することを目指しています。

住民の皆様をお願いしたいこと ~上手な医療のかかり方を心がけましょう~

医療機関を受診するときは、まずは「かかりつけ医」を訪れることをお勧めします

具合が悪くなった時など最初の医療機関を受診する際に、とりあえず大きな病院には設備が揃っているし医師も多いから安心だろうと訪れたら長い待ち時間にうんざりした経験はありませんか。

確かに大きな病院には治療機器があり専門医も多いですが、それは高度で専門性が高い医療を提供する役割を担っているからです。患者さんの状態に応じた質の高い医療を効果的に提供できる体制を構築するため、医療機関は役割を分担しています。

「かかりつけ医」に相談を

かかりつけ医とは、日常的な診療や健康に関することを何でも相談できる身近な医師です。診療所は大きな病院と比べると待ち時間は比較的短いところが多いです。体調の変化や症状が気になるときなど、まずはかかりつけ医を受診しましょう。入院や検査が必要な場合は、大きな病院や専門医を紹介します。

上手なかかり方をする事で医療費や待ち時間、さらには医療機関の負担も軽減されます。

かかりつけ医が休診等で連絡が取れない場合は、こちらも利用できます。

長野県救急安心センター



編集後記

「本離れ」という言葉をよく耳にします。「最近の人は本を読まない。スマホばかりかまけている」といってしまいがちですが、これは現在50歳の担当が子どものころに聞いた言葉とほぼ一緒。「スマホを「アプリゲーム」に置き換えれば」ということですが、SNSの情報がすべて正しいと思っている人は、若い人だけでなく実は老若男女共通で一定割合いるそうです。若い人だけでなく短い言説に慣れている現代人には、量のある文章を読むのは筋道を立てて考えることにつながり、かえって新鮮に感じるはず。かく言う私も今回の取材で改めて本にはまじりました。(北澤)



●発行
特定医療法人 丸山会 丸子中央病院
経営企画課 広報係 Marukko(まるっこ)制作委員会
〒386-0405 長野県上田市丸山1771-1

●編集・進行
北澤 淳一(丸子中央病院)
安藤 あすか(丸子中央病院)
春日 真翔(丸子中央病院)

●アートディレクター
五木田 忠之(MOKUBA.CO.,LTD.)

●デザイン
MOKUBA.CO.,LTD.

●お問い合わせは…
丸子中央病院 経営企画課 広報係
Marukko(まるっこ)制作委員会まで
TEL.0268-42-1111
月曜日から金曜日、10時~17時(祝日・休日・年末年始を除く)